

研究・調査報告書

報告書番号 1 4 3	担当 独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳) Low alcohol preference among the "high alcohol preference" C57/BL10 mice; factors affecting such preference. 高アルコール嗜好性 C57/BL10 マウスの中の低アルコール嗜好性 ; 嗜好性に影響する要因	
執筆者 O'Callaghan MJ, Croft AP, Watson WP, Brooks SP, Little HJ.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Pharmacol Biochem Behav. 2002 , 72(1-2):475-81.	
キーワード アルコール、嗜好性、ストレス	
要 旨 年齢、エタノール濃度、わずかなストレスが C57 マウスのアルコール嗜好性に与える効果について検討した。二瓶選択法で高年齢のマウス群のなかには、低年齢群に比べアルコールに対する嗜好が低いもの割合が多くなった。以前の報告では 8%エタノールに対してのみ、その嗜好性の分布に二相性のパターンが観察されているが、本実験では若いマウスで 8 又は 6%エタノールに対してエタノール嗜好が二相性のパターンにはならず、幅広くひろがる傾向がみられた。また極少数のみが 10%、12%のエタノールに対して高嗜好性を示した。低アルコール嗜好性マウスを新しい場所に移すとアルコールに対する嗜好性は有意に増加した。しかし、探索行動はその後のアルコール消費量には関連しなかった。また、血中又は脳のアルコール濃度の結果からこのような嗜好性の差がエタノールの代謝の差には依るものではないことを示している。以上の結果から、C57 系マウスの中でアルコールに対して低嗜好性をもつマウスを用いることで、アルコール消費とストレスの関連の研究に有用なモデルとなるであろう事を示唆している。	